

# H28年度本校の全国学力・学習状況調査の結果について

H28.10.25

## はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月19日（火）に全国の小中学校で実施され、本校でも、3年生158名が参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、国語・数学は、A；主として「知識」に関する問題と、B；主として「活用」に関する問題に分かれています。

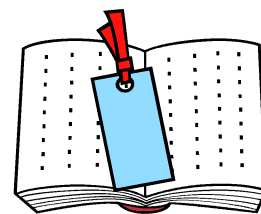
この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

9月に文部科学省から本校の結果が送付され、本校で結果の分析を行い、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、後日個人票を配付します。自分の結果を確認し、個人的にも今後の学習に役立ててください。よろしくお願いいたします。

## 1 本校の状況（全国との比較）

本校の全体的な傾向は、国語A、国語B、数学A、数学Bすべてにおいて平均正答率が極めて高く、良好な結果である。また、各自の正答率に目を向けても、散らばり方が小さい。国語・数学ともA問題に比べてB問題の平均正答率が若干低い傾向もこれまで同様であるが、全国と比べるとその差は小さい。本校では、この差をより小さくしていけるように、活用する力の育成を図っていききたい。



本校の各調査結果を比較すると、次のように言える。国語では、A問題で、全国の平均正答率との差が他の3つの問題ほどは大きくない。これは、本校の平均正答率はかなり高いが、全国の平均正答率も高かったことが原因であろう。数学では、A問題で、各自の正答率の散らばり具合がやや大きい。教科の特性なのかもしれないが、散らばりを小さくできれば、A問題の平均正答率をさらに高くできる可能性があるということでもある。日常生活にかかわる課題を取り上げて行っている教科研究を、今後も継続していくことで、活用する力の育成とともに、高い正答率を維持しながら、各自の正答率の散らばり具合を小さくすることが可能ではないかと考える。

[参考] 国公立を含めた全国平均正答率と公立中学校の県平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国平均正答率	75.0	67.5	61.0	43.8
全県平均正答率	75.6	66.5	62.2	44.1

## 2 本校の主な成果と課題

### 国語

#### A 主として「知識」に関する問題

○無解答率が極めて低いという結果が、設問全体を通して現れている。全国の国公立校の中で最も高い無解答率が1割を超える設問があるが、その設問に対しての本校生徒の無解答率は極わずかである。これは、知識に関する基礎・基本の理解の高さと問題を解決しようという積極的な学習への意欲の高さが現れているものだと考えられる。

○本校生徒の正答率が高いという結果が見られる。すべての設問の正答率が、全国の国公立校を上回っている。国語に関する基礎的・基本的な知識・技能が身につけていると考えら

れる。国語科では、指導目標の明確にすることや学習の振り返りがしやすくなるような工夫をする授業づくりを行ってきていることによる成果だと捉えている。

△全国的に正答率が低い問題においては、本校生徒も他の設問と比較してみると比較的正答率が落ちている。例えば、文脈に即して漢字を正しく書くという趣旨の設問や文字の形や大きさ、配列に注意して書くという趣旨の設問である。実生活や社会生活に即した場面での理解が必要である。

### **B 主として「活用」に関する問題**

○「活用」に関する問題に関しても、無解答率が極めて低いという結果が、設問全体を通して現れている。全国の国公私立校の中で最も高い無解答率が2割を超える設問があるが、その設問に対しての本校生徒の無解答率は極わずかである。これは、すでに学習した内容を活用するための基礎・基本の理解と問題を解決しようという学習への意欲の高さが現れている。

○記述式という問題形式の設問の正答率も高いという結果が見られる。すべての問題形式（選択式・短答式・記述式）の正答率が、全国の国公私立校を上回っている。さまざまな機会を捉えて、書くことを重視している学習の成果であると考えられる。

△課題としたい設問は「課題を決め、それに応じた収集方法を考える設問」と「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く設問」である。本校生徒の正答率が低いわけではないのだが、全校的な正答率が低いことや根拠を明確にするという課題は人に自分の考えを伝え、受け入れてもらうために大切な力だと考えるからである。

## **数 学**

### **A 主として「知識」に関する問題**

○設問全体を通して無解答率が極めて低く、内容に対する理解と何とかして問題を解決しようという意欲が、ともに高いことがうかがえる。

○全国的な傾向において課題とされた、自然数の意味や近似値と誤差の意味を問う設問、反比例のグラフから式を求める設問に対して、本校では多くの生徒が正答している。

△全国的な傾向において課題とされた、垂線の作図方法についての理解を問う設問、比例の式について、 $x$ の値の増加に伴う $y$ の増加量を求める設問に対しては、全国ほどではないものの、本校でも他の設問に比べると正答率は低いといえる。

### **B 主として「活用」に関する問題**

○全国的な傾向において課題とされた、付加された条件の下で見いだした新たな事柄について説明させる設問、与えられた情報から選択した必要な情報について式を用いて表現させる設問に対して、本校では多くの生徒が正答している。

△全国的な傾向において課題とされた、グラフの傾きを事象に即して適切に解釈したものを選ばせる設問、与えられた式を用いて問題解決する方法を説明させる設問に対しては、全国ほどではないものの、本校でも他の設問に比べると正答率は低いといえる。

## **3 各教科における主な改善点**

### **国 語**

\*漢字の読み書きの学習を継続し、文章を書く中で使用できるように指導する。

\*多くの情報に触れ、情報に対して問題意識を持ったり、新しい発見をしたりするためには、自分の体験を結びつけて考えられるとよい。国語の授業だけではなく、新聞や雑誌等の記事などを活用しながら、自分の周りの出来事に関心を持たせるような指導を心がけたい。

\*授業で身に付けた知識や技能を、活用する場面を設定したい。その際は、目的意識を明確にするために、生徒の実生活や社会生活に即した場面を考えて取り上げるようにしたい。

\*自分の意見に説得力を持たせるために、主張・根拠を意識して話したり書いたりすることを意識できるような指導をする。また、自分の考えを表現する際には、「主張と根拠の整合性はどうか」「もっとよい表現の方法はないか」などの観点を持たせるような指導をする。

## 数 学

- \* 帰納的な推論（個々の具体的な事例から一般的に成り立つ原理・法則などを導き出す方法）による説明と比較しながら、演繹的な推論（一般的に成り立つ原理・法則を用いて個々の場合について説明する方法）による説明の役割を確認する活動の機会を増やし、証明の必要性和意味の理解を深められるようにする。
- \* 数量関係を文字式で表す学習場面では、数量の関係をとらえやすくする手立てとして、積極的に図や表を用いる活動を取り入れるようにする。
- \* グラフの形と分布の特徴について考えさせる場面を取り入れたり、複数の代表値を求めて比較したりしながら、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実させ、資料の傾向をとらえ判断の理由を説明することができるようにする。
- \* 問題解決の過程を振り返りながら数学的な表現を用いて説明する活動を充実させ、図形の性質を用いて問題解決の方法を説明することができるようにする。

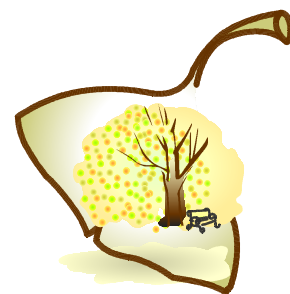
## 4 質問紙調査の主な特徴

質問紙調査は、学校や家での勉強や生活の様子について調査したものである。全国における、学校や家庭での学習や生活の状況と全国学力・学習状況調査の国語と数学の結果との関係については、国立教育政策研究所のHPに掲載されている「平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」のとおりである。

本校生徒の生活習慣や家庭学習などの主な状況は以下のとおりである。

### 生活習慣について

- \* 「毎日朝食を食べている」と回答した生徒の割合（％）は、全国平均を10.1ポイント上回っている。
- \* 「普段（月曜～金曜、以下同じ）1日あたりのテレビなどを視聴する時間」については、1時間以上、2時間未満と回答した生徒の割合が最も多い。
- \* 「普段1日あたりのテレビゲームなどをする時間」については、1時間未満と回答した生徒の割合が最も多い。
- \* 「普段1日あたりの携帯電話等での通話、インターネット、メールをする時間」については、30分未満と回答した生徒の割合が多いものの、持っていないと答えた生徒の割合が最も多かった。その一方、4時間以上、3時間以上と回答した生徒も若干いる。



### 自分や友達、学級について

- \* 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均を13.4ポイント上回っている。
- \* 「自分には、よいところがあると思う」と回答した生徒の割合は、全国平均を14.3ポイント上回っている。
- \* 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した生徒の割合は、全国平均を6.4ポイント上回り、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した生徒の割合も、全国平均を12.7ポイント上回っている。
- \* 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」については、当てはまると回答した生徒の割合が全国平均より10.1ポイント上回っている。
- \* 「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は、全国平均を6.8ポイント上回っている。

### 学習や読書について

- \* 「普段1日の学習時間」については、2時間以上と回答した生徒の割合が最も多い。そのうち3時間以上も1割以上いる。また、「土曜日曜など、休日の1日あたりの家庭学習時間」も、3時間以上が5割であり、全国と比較して学習に取り組んでいる。

- \* 「普段の1日の読書時間」については、10分以上30分未満の生徒の割合が最も多く、読書時間が確保されていない現状がある。
- \* 「国語の勉強は好きか」については全国平均を9ポイント以上上回り、「数学の勉強は好きか」については、全国平均を約20ポイント以上上回っている。

### 授業について

- \* 「1・2年生の時にうけた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいましたか」という質問では、39ポイント全国平均を上回っていた。
- \* 「1・2年生の時にうけた授業では、生徒の間で話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」という質問では、30.3ポイント全国平均を上回っていた。

### 地域や社会への関心について

- \* 「地域の行事への参加」については、全国平均を1.6ポイント上回っている。
- \* 「地域や社会でおこっている問題や出来事に関心があるか」については、関心があると回答した生徒の割合は全国平均を15.6ポイント上回っている。また、「新聞を読む」「ニュース番組などをみる」生徒の割合もかなり高い。

## 5 質問紙調査からの改善点

- \* 将来の夢や希望を持っていない生徒が「どちらかといえば」を含め20ポイントであり、さらにキャリア教育を充実させていく必要がある。
- \* 携帯電話やスマートフォン、インターネットを毎日使っている生徒が9割を超えている。使用方法や情報モラルをより一層指導していく必要がある。
- \* 「読書が好き」と回答した生徒の割合は69.0ポイントであったが、1日の読書時間が1時間未満の割合が80.4ポイントに上る。今後も日常的な読書習慣を身に付けさせたい。
- \* これまで受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたという質問では、6.5ポイント全国平均を下回っていた。まとめを意識した授業改善が必要であると分析できる。

### ※ ご家庭へのお願い

調査結果から、本校の生徒は落ち着いた生活環境の中で、自分や友達を大切に、何事にも前向きに努力している様子が分かります。多くの生徒が、楽しく学校生活を送っているようです。

学習への意欲、取組内容や時間も全国平均を大きく上回っています。新聞を読み、ニュース番組を見るなど、社会に目を向け関心を寄せている生徒も大勢います。しかし、5人に1人はまだ将来の夢や希望を持っていません。様々な話や体験などを通して、将来の夢や希望を考えていく機会をつくっていただきたいと思います。

読書については、読書が好きな生徒の割合が7割近く、月に数回図書館に行く生徒の割合が4割を超えています。しかし、1日の読書時間が30分より少ない生徒が5割以上おり、全体的に読書時間は少ないと言えます。塾や習い事、家庭学習などに時間を取られるからかもしれませんが、日常的な読書習慣を身に付けさせたいものです。

自分の携帯電話等の所有率が全国平均より高く、携帯電話やスマートフォン、インターネットを毎日使っている生徒が大勢います。メールやSNSによるトラブルも起こっています。ご家庭で使用ルールをつくるなど、トラブルの防止につながる対応をお願いいたします。